革新的技術実証事業の紹介

暖地における原料用かんしょと加工用露地野菜の大規模機械化生産体系の確立

【かんしょ露地野菜生産技術体系研究コンソーシアム】

【背　景】

南九州地域のかんしょは基幹作物であり、原料用を中心に全国の生産量の半分を占めています。また、近年は、冬期の冷凍加工用ホウレンソウで全国の生産の８割が九州で生産されるなど、かんしょ栽培と加工業務用野菜を組み合わせた経営もふえつつあります。

しかし、かんしょでは採苗や挿苗のように機械化されていない作業が多いことから省力化が求められており、冷凍加工用ホウレンソウでもコスト削減につながる規模拡大のための機械化体系が要望されています。

【内　容】

かんしょでは育苗・採苗作業などの省力化、冷凍加工用ホウレンソウでは収穫作業を中心とした機械化一貫体系の確立に取り組みます。

具体的には、かんしょでは鹿児島県で①省力・低コスト小苗生産技術、②小苗移植機の改良、③小苗のための栽培技術、④茎葉回収機の汎用利用、冷凍加工用ホウレンソウでは宮崎県で①大型収穫機の導入による作業時間の大幅な短縮、②管理機の汎用利用によるコスト低減、③作期ごとに適した品種の導入による生産の安定化、④大規模化に対応するＩＣＴ（情報通信技術）を活用した生産管理、を実証します。

【目　標】

これらの技術で、かんしょでは、育苗・挿苗作業における苗生産性向上と作業時間の短縮で生産費の10％削減を図ります。また、ホウレンソウでは、大型収穫機の導入による収穫作業時間の大幅な削減とＩＣＴ管理技術の導入で生産費の20％削減を図ります。

【畑作研究領域　杉本 光穂】

図　南九州における原料用かんしょの小苗移植栽培と露地野菜体系のイメージ

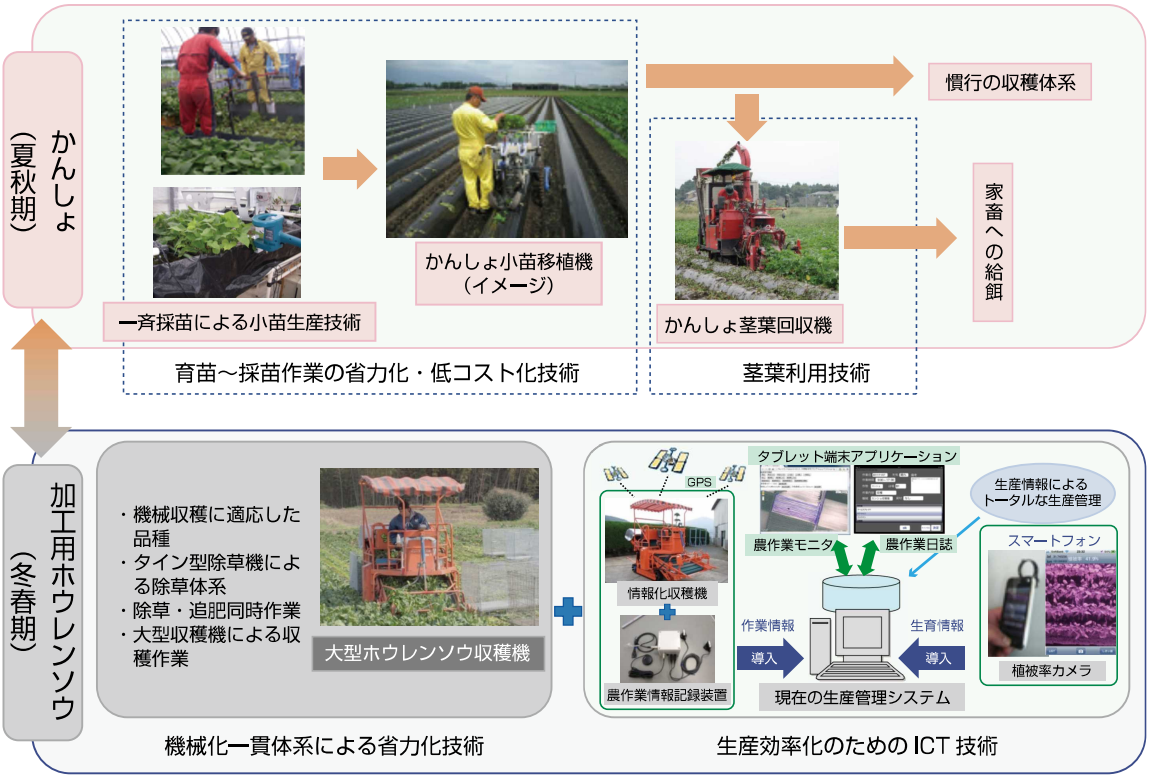

図　実証する技術内容と目標